

感染対策情報

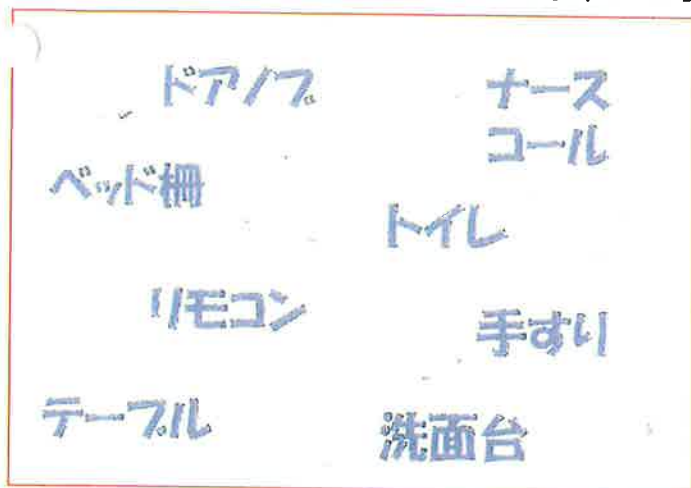
Vol.4

環境整備の重要性について

医療施設の環境中にはたくさんの微生物が存在しています。環境整備の基本は清掃とされていますが、必要に応じて、環境表面の消毒を有効に行う必要があります。特に、近年問題になっている新型コロナウイルスや多剤耐性菌、ノロウイルス、クロストリディオイデイス・ディフィシルなどに対しては環境消毒の必要性が指摘されています。

伝播リスクが高い場所は？

環境からの感染の多くは、手指を介して伝播します。そのため、手の接触頻度に応じて清掃が必要です。



使用回数の多い電子カルテのキーボードや、医療器械も忘れずに清拭清掃を行いましょう!!

これらは **高頻度接触面** と言われます。

高頻度接触面は、1回/日以上、環境クロスでの清拭消毒を実施して、感染対策を心がけましょう。

環境クロスの正しい使い方について

原則として「**常に一方通行で**」拭きましょう。往復させてしまうと、せっかくふき取った汚れや菌を、再付着させてしまいます。また、一度拭いた面を何度も使わず、折り返して新たな面で拭くようにします。

**常に一方通行
で拭き取る**

往復拭きは汚れを
広げてしまう

効果的な感染対策をしよう

コロナウイルスはインフルエンザ同様にエンベローブ(生体膜)を有するウイルスであり、消毒薬に対する抵抗性は高くないと考えられています。70%以上のアルコール消毒が推奨されており、1分間の接触時間で不活化されます。ノロウイルス、ロタウイルスはエンベローブを有しないため、アルコールによる効果は低いとされています。また、次亜塩素酸ナトリウムは金属腐食性があるため、材質に応じて消毒剤の検討が必要になります。

**感染症対策連絡協議会 ICN分科会 **

2022.9

